

---

*Innovation & Rebuild*

**株式会社メガチップス**  
**2009年3月期 通期決算説明**

<http://www.megachips.co.jp/>

# 目 次

---

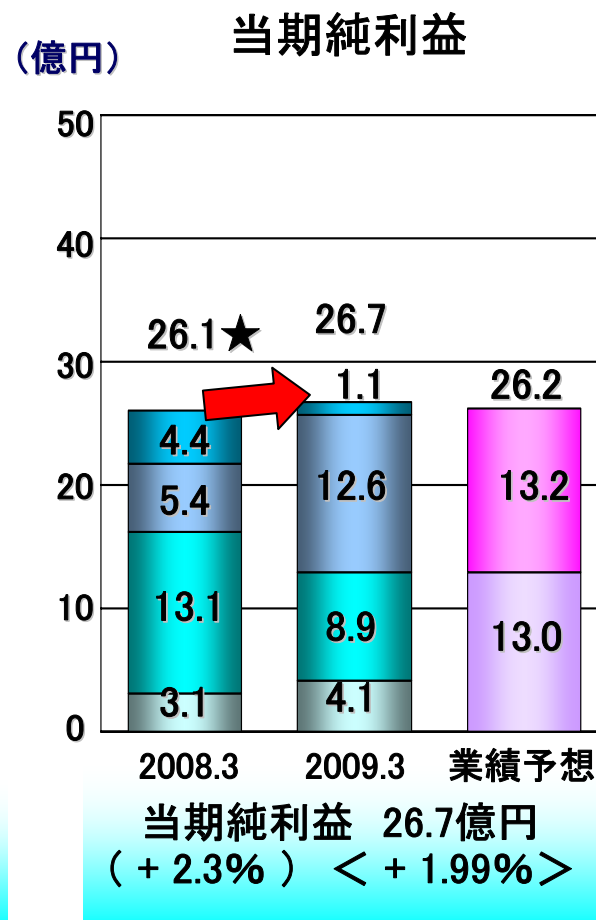
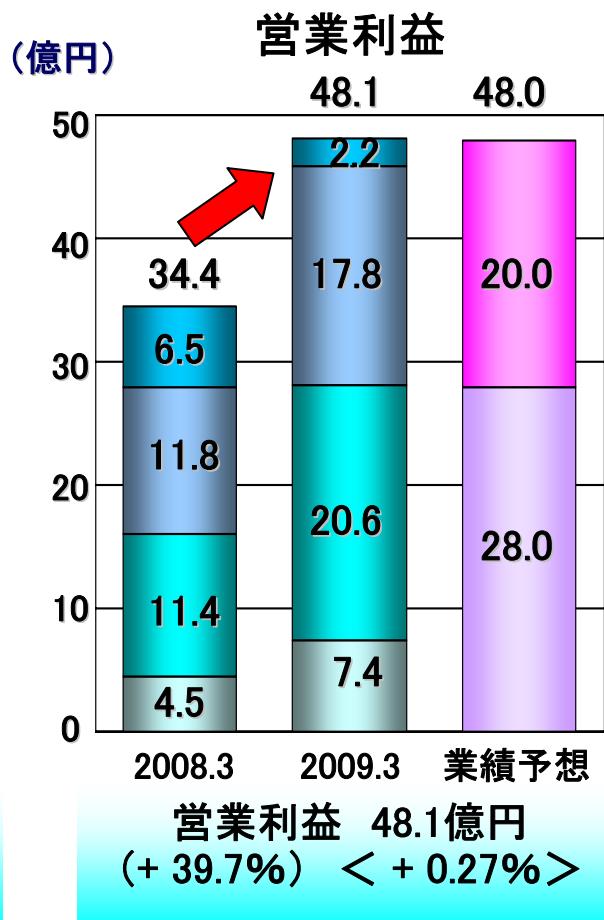
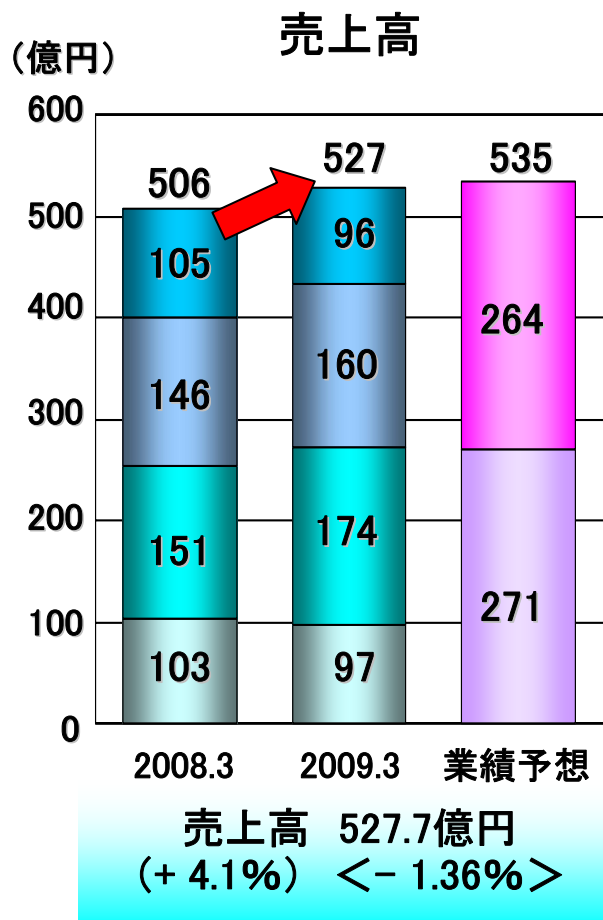
1. 2009年3月期 通期業績報告	.....	3
2. 2010年3月期・中期経営方針	.....	11
3. 2010年3月期・中期業績予想	.....	17
4. まとめ	.....	27

# 2009年3月期 通期業績報告

---

# 2009年3月期 通期業績(連結)

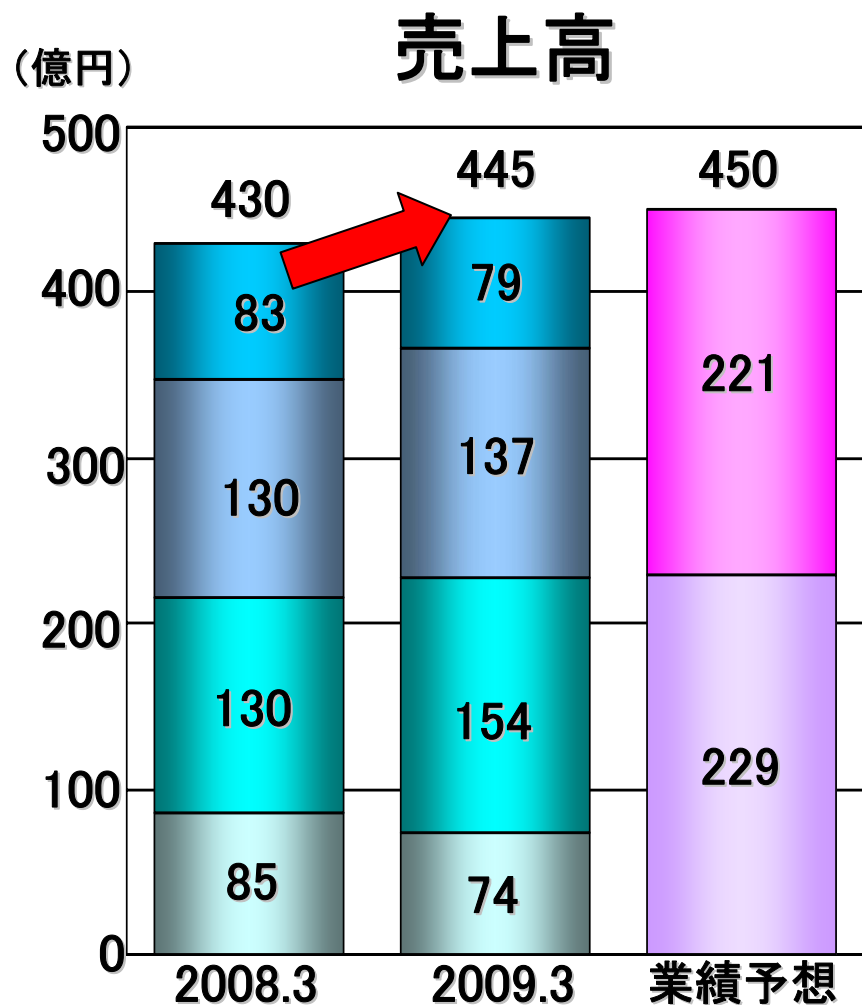
1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績	上期予想	下期予想
------	------	------	------	------	------



※()は前年同期比増減(%), <>は対業績予想比(%)

★2008.3当期純利益において、2008年3月期の期初に傘下の子会社2社を吸収合併した際の税額調整により、利益が通期で約7.7億円嵩上げされた。

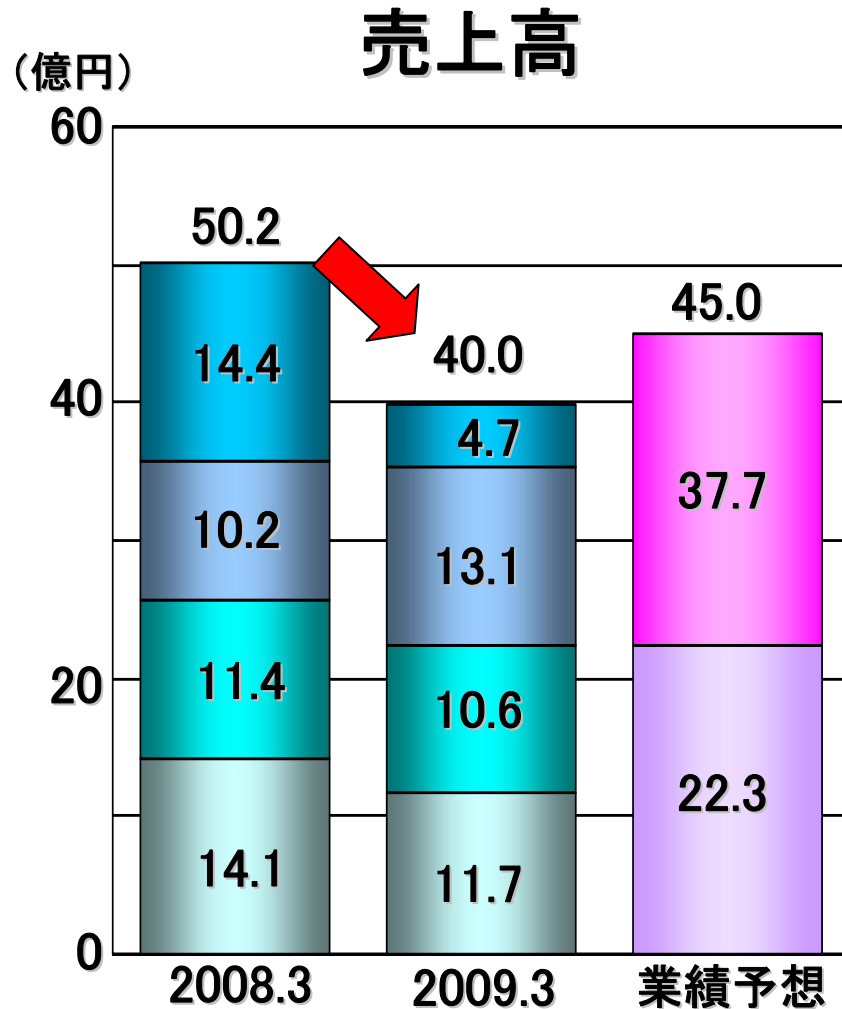
# LSI事業の売上高(ASIC)



売上高 **445億円**  
前年同期比 **+3.5%**  
業績予想比 **-1.0%**

- 携帯ゲーム機向けソフトウェア格納用LSIの需要が堅調であり、売上高は、前年同期比で増加した。
- 業績予想に対しては、若干未達となったものの、ほぼ想定どおりであった。

# LSI事業の売上高(ASSP及び電子部品)



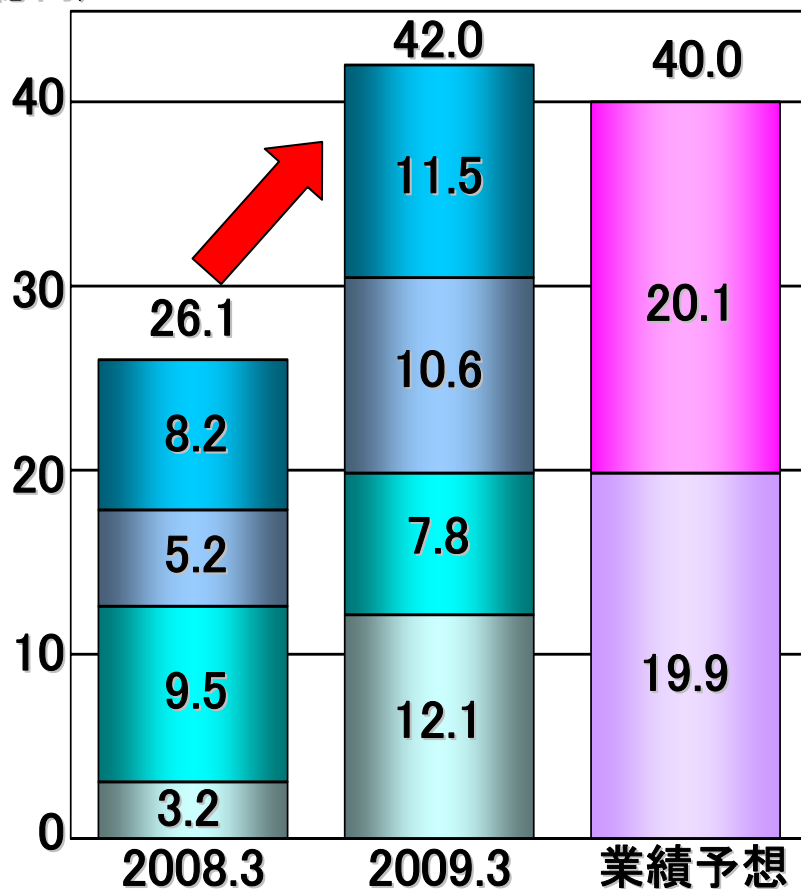
**売上高 40.0億円**  
前年同期比 -20.2%  
業績予想比 -11.0%

- 高性能デジタルカメラ用LSI、携帯ゲーム機用ワンセグチューナーの需要が堅調に推移した。地上デジタル放送1セグメント受信用LSIは、価格下落による利益率低下のため拡販を縮小した。以上の結果、売上高は前年同期比で減少した。
- 業績予想に対しても未達となった。

# システム事業の売上高

## 売上高

(億円)



**売上高** 42.0億円  
前年同期比 +61.0%  
業績予想比 +5.0%

- 顧客専用映像監視機器の新製品が立上り需要が堅調に推移したため、売上高は前年同期比で増加した。
- 業績予想に対しても上回って着地した。

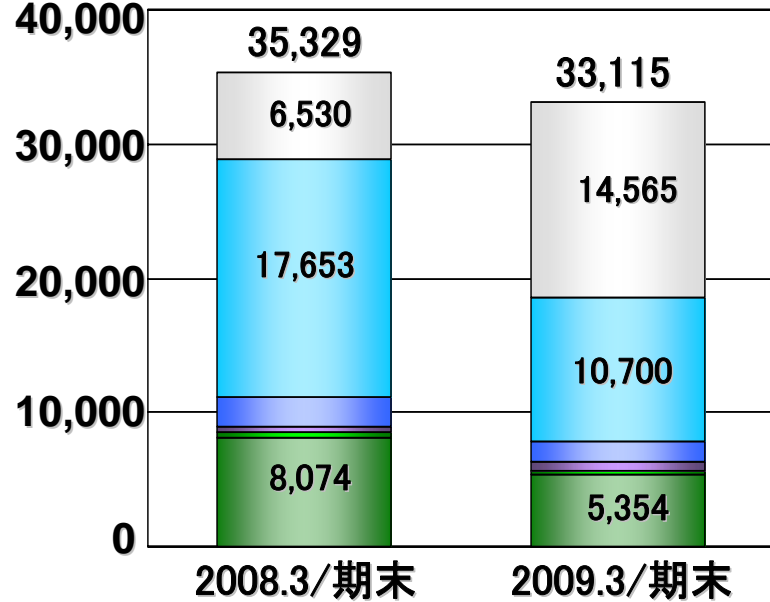
# 2009年3月期\_連結業績(P/L)サマリー

(単位:百万円)		2009.3期 実績	2008.3期 実績	2009.3期 通期予想	対前年 同期比	対業績 予想比
LSI事業	ASIC	44,565	43,041	45,000	+ 3.5%	- 1.0%
	ASSP及び 電子部品	4,004	5,020	4,500	- 20.2%	-11.0%
	売上高	48,569	48,062	49,500	+ 1.1%	- 1.9%
	営業利益	4,791	4,245	4,800	+ 12.9%	- 0.2%
システム 事業	売上高	4,201	2,609	4,000	+ 61.0%	+ 5.0%
	営業利益	22	- 737	0	—	—
連結	売上高	52,771	50,671	53,500	+ 4.1%	- 1.4%
	営業利益	4,812	3,444	4,800	+ 39.7%	+ 0.3%
	経常利益	4,892	3,304	4,900	+ 48.0%	- 0.1%
	特別損益	- 563	-168	- 598	—	—
	当期純利益	2,672	2,612	2,620	+ 2.3%	+ 2.0%
	1株利益(円)	110.21	105.60	108.18	+ 4.4%	+ 1.9%

注) 2008.3当期純利益において、2008年3月期の期初に傘下の子会社2社を吸収合併した際の税額調整により利益が、通期では約7.7億円嵩上げされた。

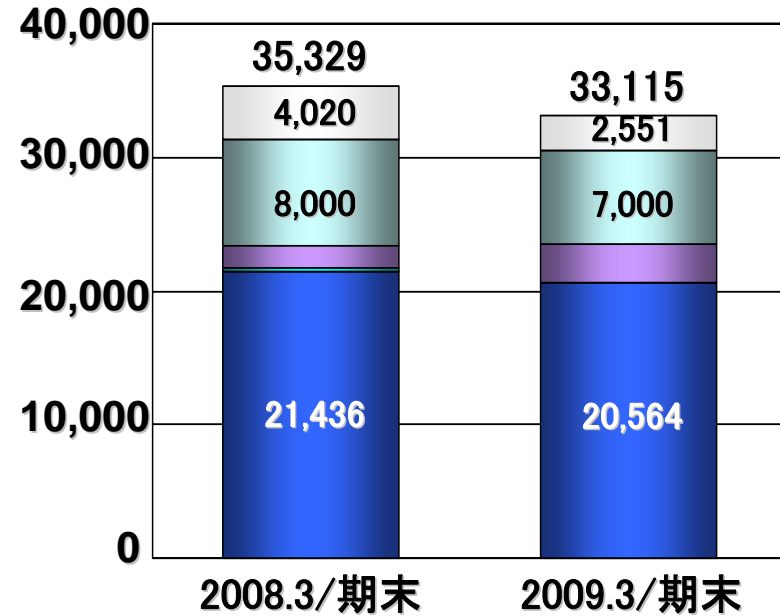
# 2009年3月期 通期連結業績(B/S)

(百万円) **資産: 高い流動比率**



	2008.3/期末	2009.3/期末
現金及び預金	6,530	14,565
受取手形及び売掛金	17,653	10,700
たな卸資産	2,259	1,558
その他の流動資産	413	638
無形、有形固定資産	398	296
投資その他の資産	8,074	5,354

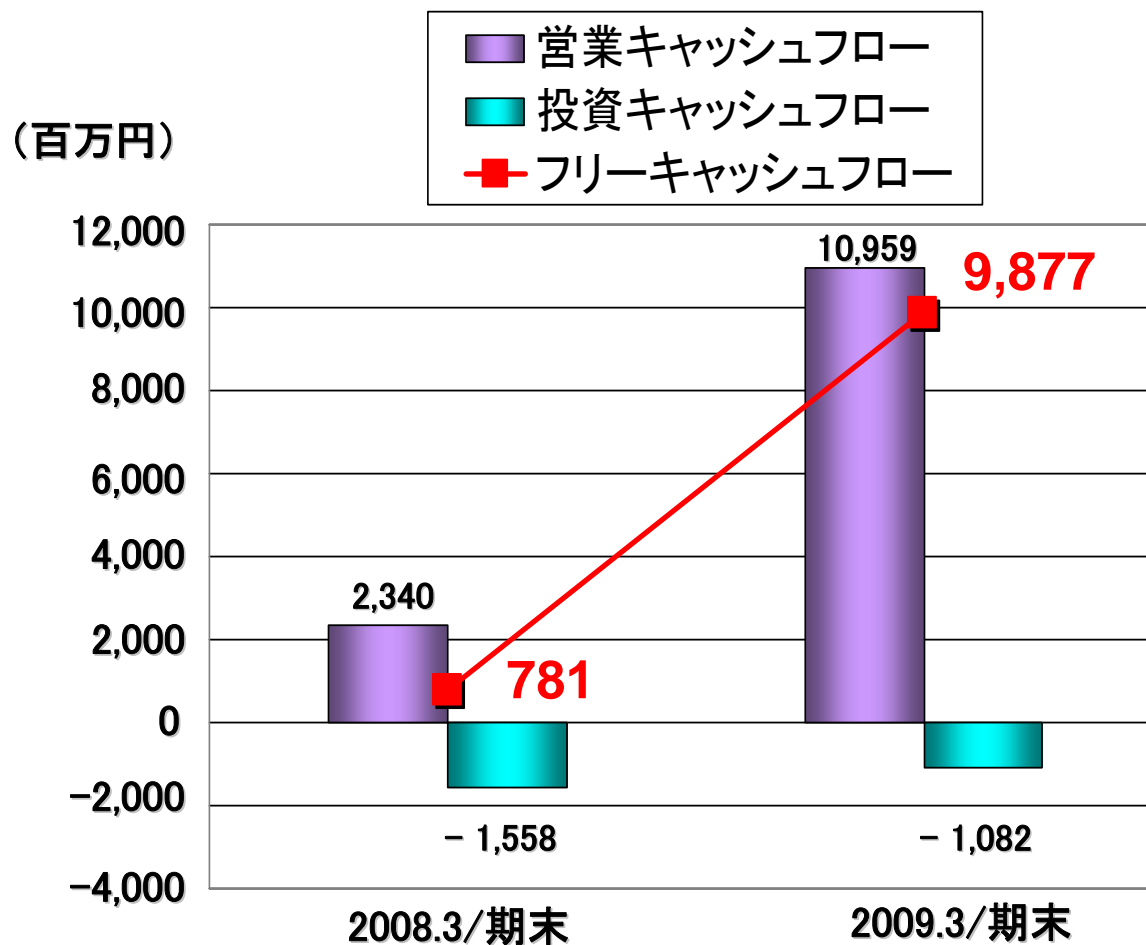
(百万円) **負債・純資産: 厚い自己資本**



	2008.3/期末	2009.3/期末
支払手形及び買掛金	4,020	2,551
有利子負債	8,000	7,000
その他流動負債	1,647	2,953
その他固定負債	224	45
純資産	21,436	20,564

# 2009年3月期 通期連結業績(C/F)

## フリーキャッシュフローの改善



# 2010年3月期・中期経営方針

---

## 4期連続増収・増益へ

2009.3月期実績 3期連続増収・増益  
営業利益及び当期純利益：過去最高

(単位：百万円)	2007.3 (実績)	2008.3 (実績)	2009.3 (実績)	2010.3 (業績予想)
売上高 (対前年度比)	44,696 (+45.5%)	50,671 (+13.4%)	52,771 (+4.1%)	53,500 (+1.4%)
営業利益 (対前年度比)	2,920 (+37.8%)	3,444 (+17.9%)	4,812 (+39.7%)	5,000 (+3.9%)
当期純利益 (対前年度比)	1,519 (+14.9%)	2,612 (+71.9%)	2,672 (+2.3%)	2,800 (+4.8%)

4期連続増収・増益へ

# 中期成長戦略

日本でNo.1のファブレス・ベンチャー企業として！

顧客ニーズに最適なソリューションを提供する。

## ●顧客密着型のビジネスに集中

ビジネスモデルの多様化により幅広くソリューションを提供し、有力顧客に付加価値をもたらす顧客密着ビジネスに注力。

## ●新たな事業を立ち上げ、事業ポートフォリオを構築

景気に左右され難いエコ・エネルギー分野市場への参入。  
成長事業への選択と集中により、事業ポートフォリオを構築。

## ●高収益化への体質改善

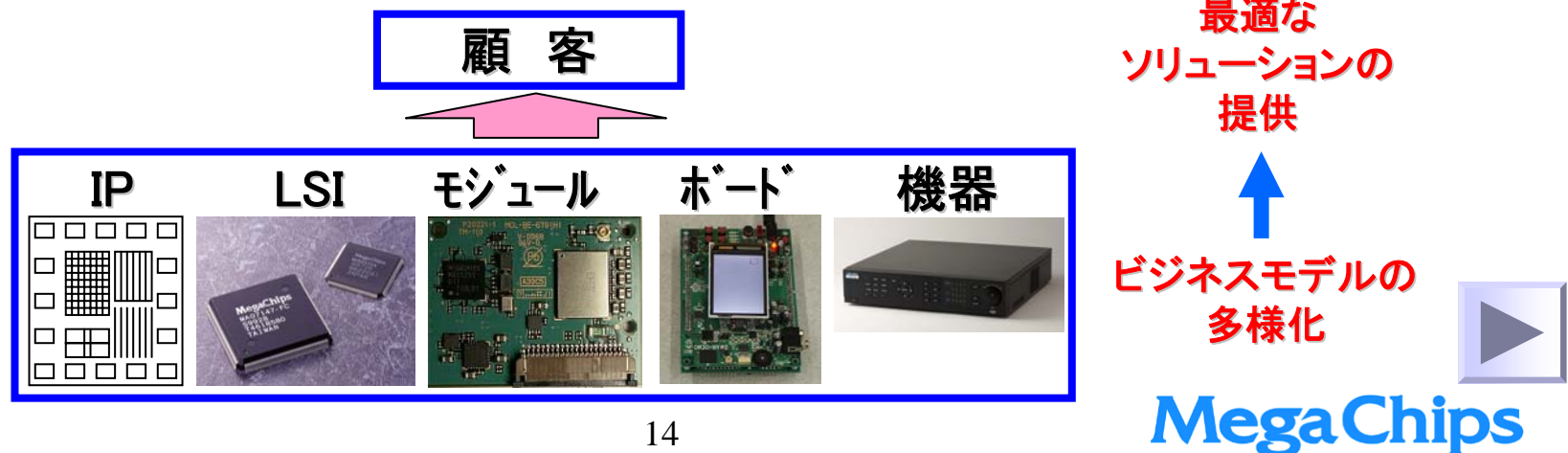
開発のスピードアップ、業務効率改善、在庫の縮減等で無駄を省き、事業効率向上と環境維持への貢献。

# 今後の方針1

## ●顧客密着型ビジネスへシフト

コストパフォーマンスだけで勝負する標準品から、有力顧客に付加価値をもたらす顧客密着ビジネスに注力。

- 長期信頼関係構築 : 継続的なビジネス獲得
  - 安定需要 : 受注生産による在庫リスク回避
  - 付加価値競争 : 過度の価格競争回避
- ※不況に一層強い体質作り。



# 今後の方針2

● 新たなビジネスを立ち上げ、適正な事業ポートフォリオを構築  
市況の影響を受けにくい社会的ニーズの高まりにより継続拡大が見込まれる、  
家庭インフラ、エコ、エネルギー分野の育成に取り組む。  
成長事業への選択と集中により、事業ポートフォリオを構築。

## 新規市場

アミューズメント市場

顧客専用ビジネスの拡大

## 戦略的進出市場

家庭インフラ  
エネルギー、エコ市場

将来、収益の柱のひとつ

## 既存事業

ゲーム市場

強化・維持

セキュリティ市場

強化・維持

デジタル家電市場

有力顧客向け  
顧客専用製品に集中

# 今後の方針3

## ●高収益化への体質改善

アライアンス活用、原価コントロール、生産工期短縮、在庫圧縮、業務効率改善等施策により、高収益化を図る。

- (1) アライアンス活用による開発投資・事業リスクの軽減
- (2) 開発段階からの総原価コントロール
- (3) 生産工期短縮と在庫の圧縮
- (4) 人員の配置・規模の最適化と業務効率の向上

# 2010年3月期・中期業績予想

---

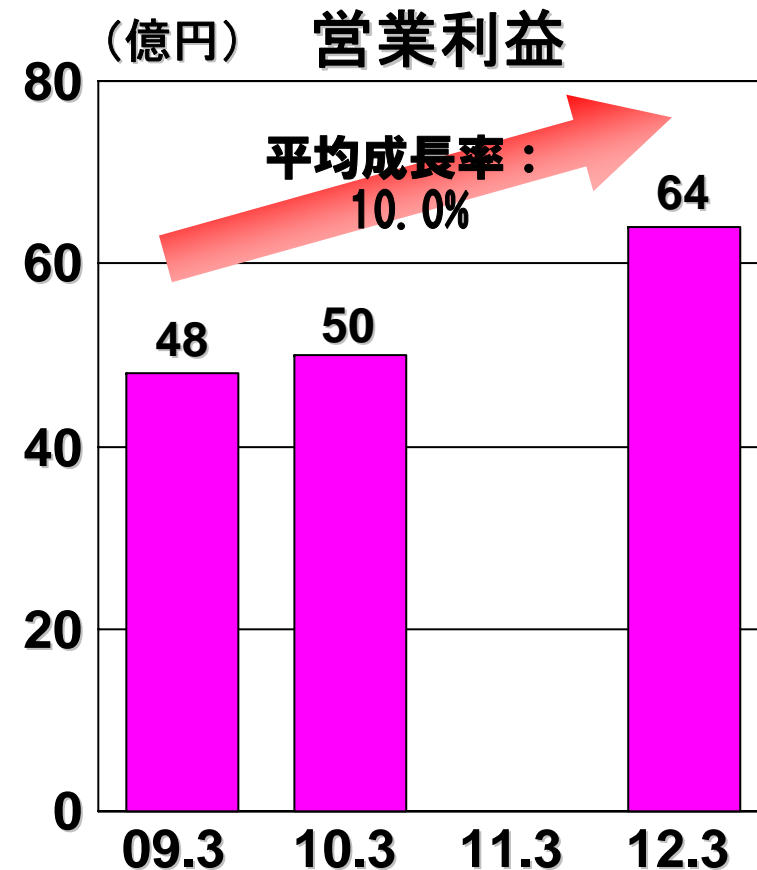
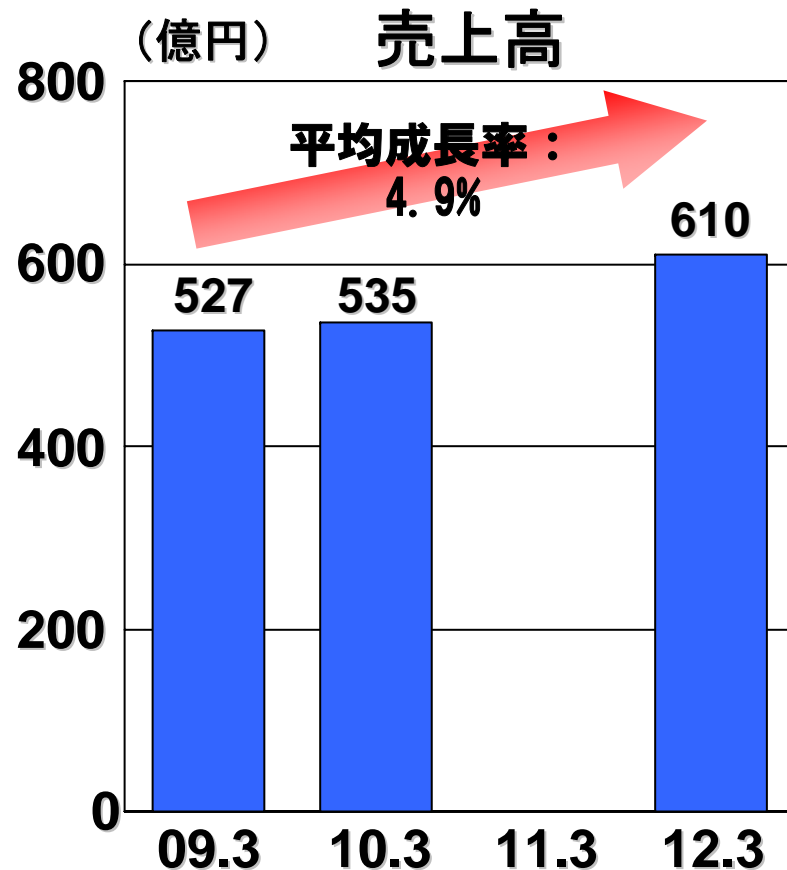
# 2010年3月期 業績予想

(単位:百万円)		2010.3 上期 予想	2010.3 通期 予想	2009.3 上期 実績	2009.3 通期 実績	対前年 上期 実績比	対前年 通期 実績比
LSI 事業	売上高	23,700	48,600	25,129	48,569	- 5.7%	+ 0.1%
	営業利益	2,400	4,900	2,745	4,791	- 12.6%	+ 2.3%
システム 事業	売上高	2,000	4,900	1,993	4,201	+ 0.4%	+ 16.6%
	営業利益	0	100	56	22	—	+ 354.5%
連結	売上高	25,700	53,500	27,123	52,771	- 5.2%	+ 1.4%
	営業利益	2,400	5,000	2,801	4,812	- 14.3%	+ 3.9%
	経常利益	2,300	5,000	2,770	4,892	- 17.0%	+ 2.2%
	当期純利益	1,320	2,800	1,303	2,672	+ 1.3%	+ 4.8%
	1株利益(円)	54.50	115.60	53.70	110.21	+ 1.5%	+ 4.9%

# 中期業績目標

## 中期業績目標(2012年3月期の目指す姿)

●連結営業利益 64億円、営業利益平均成長率 10%



# LSI事業セグメント 事業領域

- 既存顧客向け供給製品の競争力強化と多様化  
(各種ソリューションへの展開)
- 顧客専用ビジネスでの新規顧客開拓  
(アミューズメント用応用特化メモリ等)

## アミューズメント分野

- 新規顧客開拓  
(応用特化型メモリ、画像・音声処理関連製品等)

## エンターテインメント分野

- 大容量・短納期・高セキュリティの応用特化型メモリ
- オプション機器向けソリューション
- 携帯型ゲーム機および据置型テレビゲーム機向けの各種ソリューション

### 現在の主要製品



携帯ゲーム機向けゲームカセット用LSI



据置型ゲーム機本体向けLSI

※ニンテンドーDS、Wiiは任天堂の登録商標です。

# LSI事業セグメント 事業領域

- 有力顧客にターゲットを絞った専用LSI、モジュールの提供及びIPビジネス(開発資産)の展開
- 家庭インフラ、エネルギー、エコ分野への新規取り組み

家庭インフラ  
エネルギー、エコ分野

- 通信、センサー応用、制御  
センサーと通信を組み合わせたモジュール、省エネ・環境対応製品

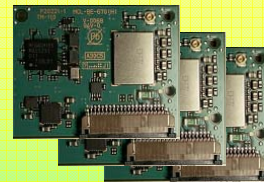
デジタルカメラ分野  
AV分野

- 有力顧客にターゲットを絞った専用LSI、モジュール、IP等の提供

システムLSI



モジュール



各種IP



現在の主要製品

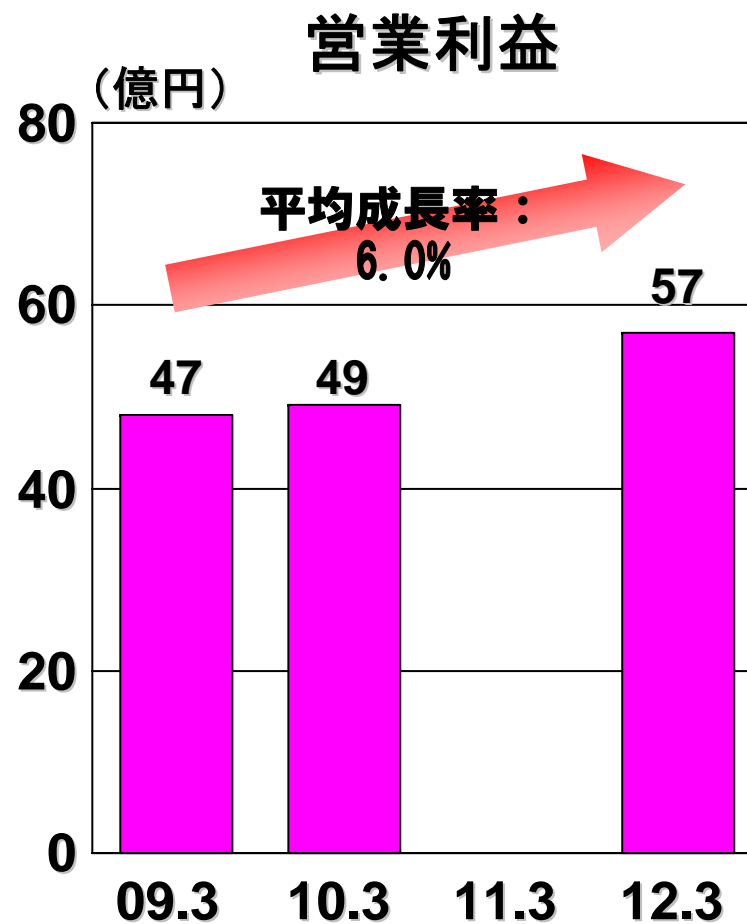
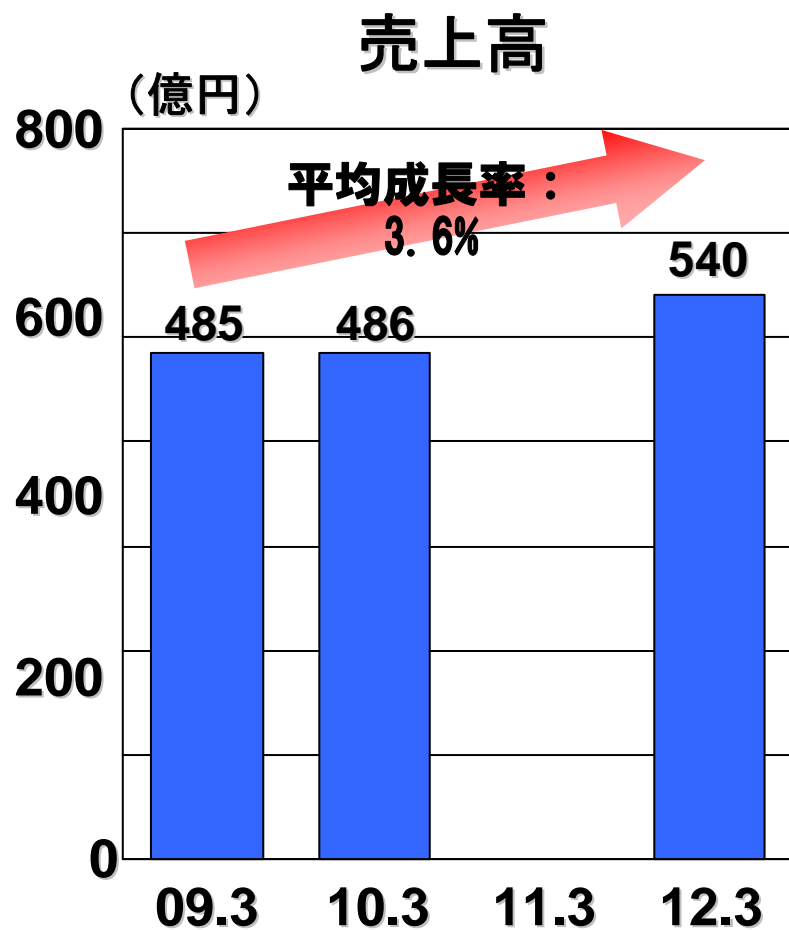


デジタルカメラ



AV機器向け

# LSI事業セグメント 中期業績目標



# システム事業セグメント 事業領域

- 既存顧客への供給製品多様化で事業拡大
- セキュリティ・モニタリング用途の顧客専用システム事業に『集中』・『特化』し収益の維持・拡大

ホームセキュリティ

- ホームセキュリティ用機器の拡大

業務用途

- 新規顧客獲得

業務用セキュリティ  
CCTV

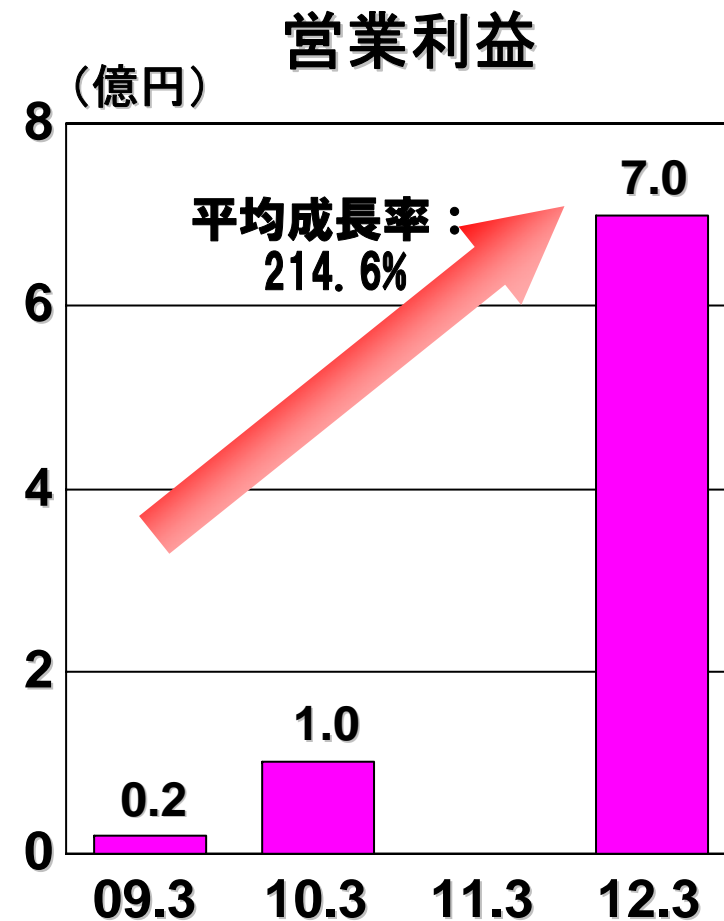
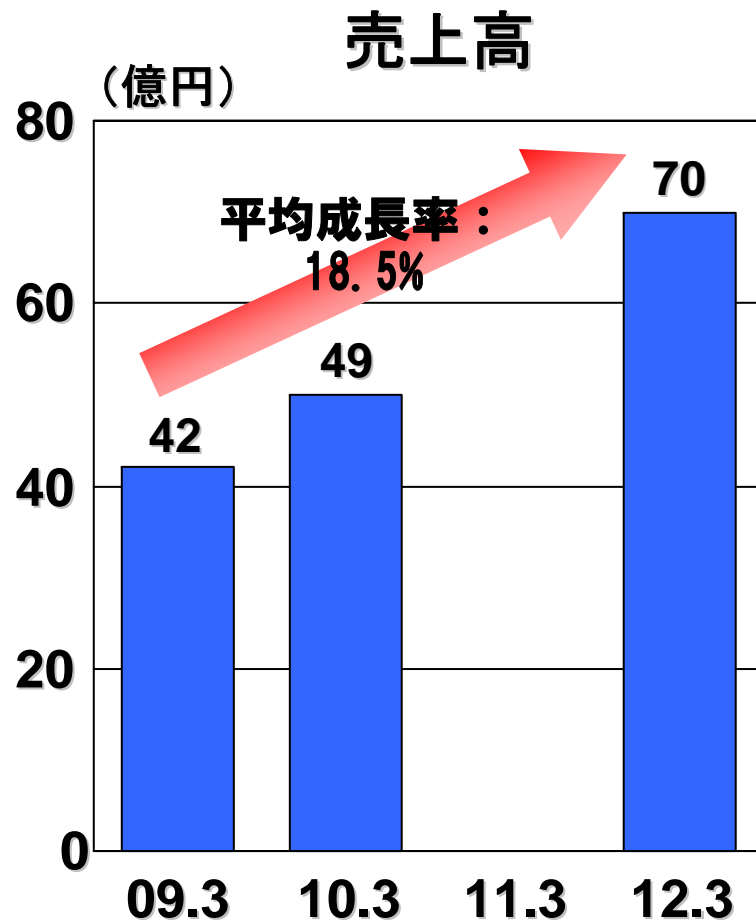
- フルデジタル映像監視システムの供給製品拡大  
(ネットワーク対応で小規模～大規模監視システムまで対応領域の拡大)
- カメラ分野の強化

現在の主要製品

- ・画像伝送サーバ
- ・デジタルビデオレコーダ
- ・機械警備用画像撮影システム
- ・セキュリティ用コントローラ端末
- ・ネットワークカメラ など



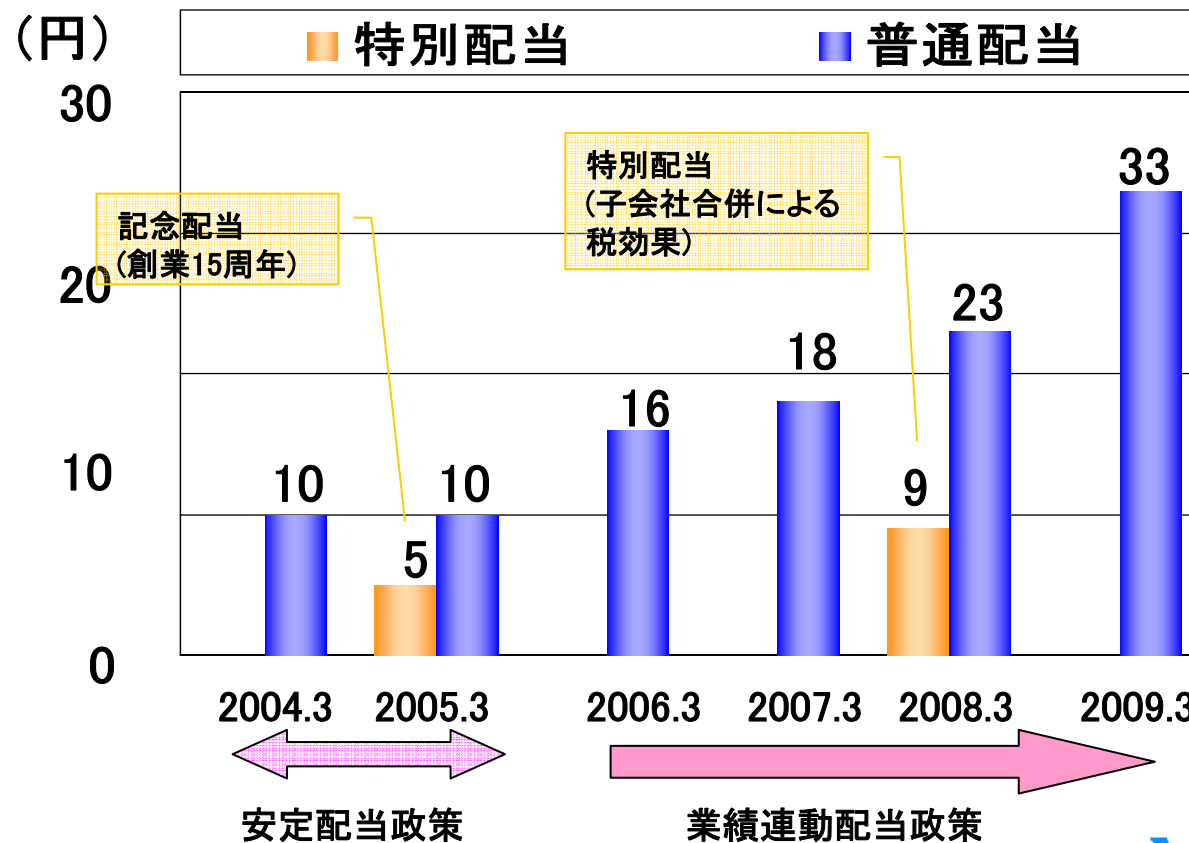
# システム事業セグメント 中期業績目標



# 経営体質(利益配分)

【2009年3月期配当】

普通配当で1株33円に決定。6月3日から支払開始。



# 経営体質(利益配分)

## 【配当方針の変更】

- ① 中長期的な成長に向けた投資を行うため、また経営環境の変化にも耐える健全な財務体質の維持に必要な内部留保を確保。  
(従来から変更なし)
- ② 剰余金の配当は、配当性向30%程度、または連結純資産配当率(DOE) 2%程度の、いずれか高い方。
- ③ 機動的に自己株式取得。(従来から変更なし)

# まとめ (Key Investment Highlights)

当社の得意分野である顧客専用事業を強化・拡大すると共に、LSIからシステムまで幅広くソリューションを提供し、ビジネス機会、顧客層を拡大することで更なる成長を図る。

- LSIとシステムの技術力を最大限に発揮し、顧客密着型のビジネスに集中し、既存顧客への供給製品の拡大と、新規の有力顧客開拓を進める。
- IP、アナログ製品や小規模LSI、また、当社のシステムLSIを核にしたボード・モジュールビジネスを育成し、ビジネス機会、顧客層の拡大を目指す。
- また、インダストリー・社会インフラ分野への新たな展開へも着手する。

# IRポリシー

## ≫ 基本姿勢

当社は、「公平性」「適時性」「正確性」「継続性」に配慮して、経営戦略や財務状態等の会社情報を発信し、経営の「透明性」を高めるとともに、株主・投資家・証券アナリストの皆さまからの当社に対する信頼と適切な評価を得るために、経営者自ら積極的なIR活動に取り組みます。

## ≫ 情報開示の基準

当社は、金融商品取引法、会社法等の諸法令(以下、「法令」)、また当社の株式が上場されている東京証券取引所の定める「上場有価証券の発行者の会社情報の適時開示に関する規則」(以下、「適時開示規則」)を遵守してディスクロージャーを行います。また、法令ならびに適時開示規則に規定される開示基準に該当しない場合でも、株主・投資家・証券アナリストの皆さまの投資判断に影響を与えられとされる情報や、当社への理解を深めていただく上で有用であると思われる情報は、積極的に開示します。

## ≫ 情報開示の方法

当社は、適時開示規則に定める開示基準に該当する情報、株主・投資家・証券アナリストの皆さまの投資判断に影響を与えられとされる情報は、適時開示規則に従い、東京証券取引所が運用する適時開示情報伝達システム Timely Disclosure network (TDnet) を通じて開示するとともに、速やかに当社のインターネット上に開設するホームページ(以下、「ホームページ」)に掲示します。  
また、これら以外の情報についても、当社を理解していただく上で有用であると思われる情報は、IR情報誌等の発行や、ニュースリリースの配信やホームページへの掲載を通じて情報発信します。

# IRポリシー

## ≫ 将来の見通しについて

当社が開示する情報の中で、業績予想や将来の予測等に関する記述は、その情報が開示される時点で経営者が入手した情報に基づき判断した予想であり、不確実性や潜在的なリスク(以下、「リスク」)が含まれる場合があります。しかし、結果としての業績等は、変化するさまざまな要因によって、予想とは異なることがありますことをご承知おきください。これらリスクは「事業等のリスク」として開示に努めますのでご参照ください。

## ≫ 投資の判断

当社の開示する情報は、当社に対する理解を深めていただくことを目的としており、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、ご自身の判断において行なわれますようお願いいたします。

## ≫ 第三者が発行する当社情報への対応

証券アナリストや報道機関、インターネット上のさまざまな情報サイト等の当社以外の第三者が発信する、当社の情報・業績予想等各種情報については、当社はコメントやこれらを支持する立場にはありません。ただし、これらの内容に明らかな誤りが含まれており、当社への信頼と適切な評価が得られないと判断する場合には、その誤りを訂正し、正確な情報を伝えるための対応をいたします。

## ≫ IR沈黙期間

当社は、株価に影響を与える決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、各四半期の、決算日の5営業日前から決算発表日までを沈黙期間と定めます。この期間中は、決算に関連するお問い合わせへのコメントを控えさせていただきますので、ご理解いただきますようお願いいたします。ただし、法令や適時開示規則に該当する情報については、沈黙期間中であってもディスクロージャーを行った後、お問い合わせに対応いたします。

## ≫ 関連

適時開示に係る宣誓書(東京証券取引所ホームページに掲載)  
適時開示体制概要書(東京証券取引所ホームページに掲載)  
情報開示標準(当社社内規則)

## 本資料に関するお問い合わせ先

株式会社メガチップス  
財務経理統括室 広報グループ

[ir-team@megachips.co.jp](mailto:ir-team@megachips.co.jp)

〒532-0003 大阪市淀川区宮原4丁目1-6 アクロス新大阪  
TEL: 06-6399-2884(代) FAX: 06-6399-2886